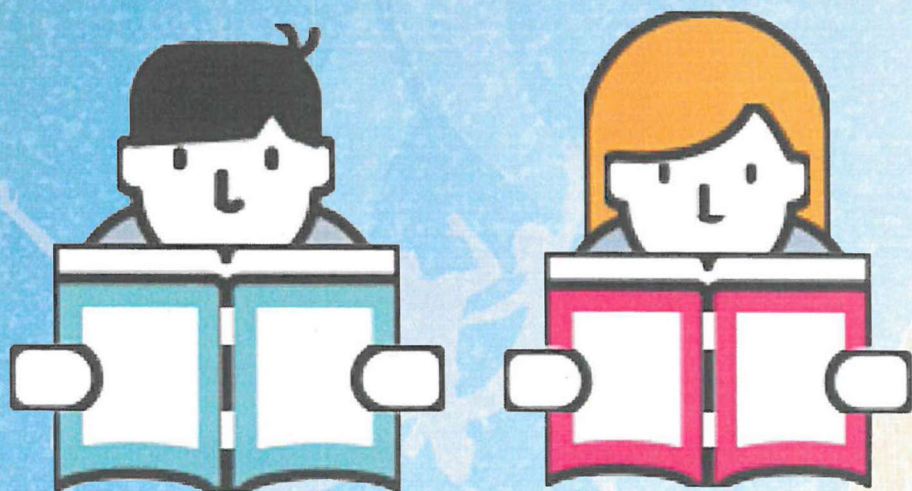


入賞作品集

第16回 外国人留学生 作文コンテスト



-目 次-

【 優 秀 作 】

- 「香川での挑戦」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 1 ~ 2
香川大学 教育学部 曾 曉妍 (中国)

【高松キワニスクラブ会長賞】

- 「先入観がない社会へ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 3
香川大学 経済学部 張 徳陽 (中国)

【 佳 作 】

- 「外国人が住みやすい社会はどうやって作ればいいだろう」・・・・・・・・p. 4 ~ 5
香川大学 留学生センター CHEON GWANGHEE (韓国)
- 「いい社会は一人では作れない」・・・・・・・・・・・・・・・・p. 6 ~ 7
香川短期大学 経営情報科 情報ビジネスコース HOSSAIN MD KAWSAR (バングラデシュ)
- 「香川でバンド活動」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 8
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 DIKI YITNO (インドネシア)
- 「最高のレストランを作りたい」・・・・・・・・・・・・・・・・p. 9
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 GURUNG MAYGAL (ネパール)
- 「私の夢」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 10
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 GIMENEZ PAULA ROMINA (アルゼンチン)

【審査委員特別賞】

- 「日本は本当に住みにくいのだろうか」・・・・・・・・・・・・・・・・p. 11 ~ 12
香川大学 留学生センター RANGSON SOITIP (タイ)
- 「外国人にとって住みやすい社会とは」・・・・・・・・・・・・・・・・p. 13 ~ 14
高松大学 経営学部 VU THI PHUONG THAO (ベトナム)

審査委員

- ◆ 塩井 実香 香川大学インターナショナルオフィス講師
◆ 斎藤 学 四国学院大学総合教育研究センター准教授
◆ 畑 ゆかり 穴吹ビジネスカレッジ教務部部长



香川での挑戦

香川大学 教育学部 曾曉妍

「いったい何時間この街をうろうろしていたのだろう、もう足が棒だ！」

日本に着いた次の日の夜、私は駅を出たとたん、呆然としてしまった。昼間、先輩の案内で電車に乗り、学校まで行ったので、駅前がどんな様子だったのか、全く覚えていなかった。まして、夜だ。暗くて静かな街、まるで迷宮に迷い込んでしまったようだ。たまに車が通りすぎ、自転車に乗った人も何人か見掛けたが、恥ずかしさとか、迷惑になるだろうかとか、いろいろ考えすぎて、道を尋ねる勇気がでなかった。結局、一人でずっと街をうろうろしていた。寂しくてならなかった。

まさか、香川での最初の挑戦が一人で家に帰ることになるろうとは……。

一週間後、私は自転車を手に入れた。学校に貸してもらったのだ。その古い自転車を学校の近くの自転車屋さんに持って行った。うまく言葉が通じるか不安でドキドキしながら、

「すみません、自転車を修理してもらいたいですけど…」

と声を掛けた。奥から出てきたのは、お爺さんだった。お爺さんは、ニコニコしながら、私にいろいろなことを説明してくれた。そして、最も安い修理方法を選んでくれた。私は安心して自転車の修理をお爺さんに任せた。一時間後、自転車を取りに行ったとき、私が留学生だと分かったお爺さんは、丁寧に自転車に乗るときの注意事項を教えてくれた。特に印象に残っているのは、お爺さんがランプの点灯原理を説明してくれたときの様子だ。雑巾をランプの上に被せて、

「暗くなると…」

と言いながら、左手で前輪を持ち上げ、右手で素早く回し始めた。

「ほら、こう、走り出すと自動的にランプが点くんだよ。」

そう言いながら、お爺さんが右手の勢いを更に強めると、ランプがもっと明るくなった。

「わあ、すごい！便利ですね！」

私はそう言いながら、このお爺さんを魔法使いを見るような眼差しで見ている。そして、お爺さんの魔法のランプは、新しい生活への不安で暗く曇っていた私の心をも明るく照らしてくれた。

「よし、これで安心して乗れるからね。」

お爺さんは私の自転車をポンと叩いてそう言った。

「はい、本当にありがとうございました。」

魔法のランプの付いた自転車は、軽やかに走った。私は、思わず鼻歌を歌っていた。そして、お爺さんに直してもらった自転車は、私に勇気をも与えてくれ

「このまま、6キロ離れた宿舎まで帰ろう！」

この時、まだ日本のスマホは持っていなかったし、いつも道に迷う私にとって、これは大きな挑戦だった。

東西南北さえ分からない私は、まず、宿舎の大体の方向を確かめなければならなかった。そして、交差点で信号待ちしていた女子学生に、勇気を振り絞って声を掛けた。

「すみません、屋島はどちらの方向ですか。」

「えっと、どっちだっけ？ちょっと待ってね、調べてみるから。」

そう言うと、その女子学生はスマホを取り出した。でも、ちょうどその時、信号が青

に変わり、私は、

「大丈夫です。他の人に聞きますから。ありがとう。」

と言って、女子学生を先に行かせた。目的は果たせなかったけど、みんな親切だ、怖がったり、恥ずかしがったりする必要はないと分かった。

今度は、おばさんに尋ねた。

「すみません、屋島はどちらの方向ですか。」

「まず、この道を行くと、大きな道に出るから、その道をあっちのほうに数キロぐらい走ると、宿舎が見えるよ。ちょっと遠いけど、自転車だから大丈夫、大丈夫…」と身振り手振りを交えて教えてくれた。おばさんもととても親切だった。

その後も何度か道を尋ねながら、進んでいった。6キロの道のりは思ったより遠く、途中でだんだん暗くなってきた。その時、魔法のランプがぱっと点灯した。もう何も不安はなかった。道が分からなくなれば、誰かに聞けばいい。宿舎に着いたときには、すっかり日が暮れていたが、初めて走った道にも関わらず、迷うことなく着くことができた。この6キロの挑戦は、私に人々の優しさと恥ずかしがらずに交流することの大切さを教えてくれた。そして、私の香川での本当の挑戦もはっきり定まった。

「毎日十人に話しかける。」

これが香川での私の挑戦である。毎日十人の人に話しかければ、留学期間中に約三千人の人々と会話することができる。私は、香川での留学をより実りある物にするために、この目標を立てた。

その夜、私はどうしてこれまで人に話しかける勇気が出せなかったのだろうかと考えた。

それは、多分、私が他人との付き合いにおいて、必要以上にいろいろなことを考えてしまうからだと思う。他人から声を掛けられれば、喜んでコミュニケーションしようとするのだが、自分から声を掛けるときは、迷惑が掛からないだろうかとか、不親切な人だったらどうしようとか、いろいろ考えて、躊躇してしまう。でも、これではいけないことは分かっている。誰かに話しかけられるのを待っているだけでは、誰も私のことを知らないし、香川の人々とのコミュニケーションもできない。そして、退屈な留学生活を送ることになってしまう。今、自ら一步を踏み出さなければ、この一年間の経験と思い出は、一枚の紙切れのように薄っぺらいものになってしまう。だから、私は、今、香川で自分を変え、積極的に人々に話しかけ、自主的にいろいろな活動に参加しようと思っている。

幸い、ここ香川県では、さまざまな活動が行われていて、多くの外国人が参加している。私もこの活気あふれる環境をうまく利用して、香川の人々とどんどん交流を深めていきたいと思っている。このチャレンジこそが、語学力だけでなく、私のコミュニケーション能力を高め、異文化交流の楽しさを知るきっかけになると思う。心を開いて他人に話しかけることから、お互いの信頼関係が生まれ、それぞれの文化への理解が深まるのだと私は信じている。だから、香川に滞在している間、この挑戦を続けていきたいと思う。

先入観がない社会へ

香川大学 経済学部 張 徳陽

昨今、グローバル化が急激に浸透している。その影響もあってか日本では、外国人労働者や留学生が増加傾向にある。文化が近い地域出身の人もいるし、生活習慣が全く違う地域出身の人も存在している。それでは、外国人にとって住みやすい社会とは一体どんな形であろうか。

まず、紹介したいのが「先入観」という言葉の概念である。「先入観」とは対象認識において、誤った認識や妥当性に欠ける評価・判断などの原因となる知識、または把握の枠組みを言う。簡単な例で説明すれば「この人は中国人だからお金持ちだろう」という話はよく聞かれる。確かに2009年(平成21年)中国個人観光ビザ発給開始後、中国人は訪日外国人観光客の大部分となり、来日した中国人観光客が大量に商品を購入してこのようなイメージが残るのは考えられることだと思う。中国人だからお金持ちのようなイメージも爆買い現象と一緒にみんなに知られている。この過程で無視されているのは中国人たちがお金を稼ぐために流した血と汗である。一方で、中国人が何か悪いことをしたというニュースを見ると、周りの中国出身者にもこのようなことを疑う可能性が高くなり、これも先入観であると思われる。マスメディアの急速な発展に伴い、人々はニュースが報道するものをより喜んで信じるようになった。ニュースが真実かどうかは重要ではなくなり、「新聞とかテレビがこのように言ったからこれが事実だ」というような発展趨勢は危険だと考える

このような点から外国人にとって住みやすい社会は一体どんな様子であるかと考えると、先入観がない社会だと思う。外部の評価などは悪い影響をもたらさず、お互いに尊敬して共生することが大事だと考える。外国人と会う時、最初にお互いに接触してから評価し、先入観が頭を支配しないようにすることがいろいろなところでも役に立つと考える。

一方、外国人自身は何かやれることがないだろうか。まず自分にとって異文化のものを尊敬することである。相手を尊重し尊敬するからこそ同じように尊重され尊敬される。人々にとって異文化は当然日常とは異なること、つまり多くの変化を伴うものである。ここで注目すべきことは、先入観を持たず、感情制御力があり、オープンな心を持っていることである。対人コミュニケーションスキルを高めて個人のイーキューを育てる。失敗することがあっても自分を受け入れることができるということである。また、新しい考え方、やり方、価値観にオープンな心を持って、相手を理解しようと努力する態度が大切である。自身と自文化の考え方、価値観などを保留しながら相手の考え方や価値観を受け入れる能力を培う。異文化と直面する時、状況に合わせるために自分の行動も適当に変えなければならない。つまりオープンな心に根ざした行動力が必要である。

共生という言葉は、国籍や民族にかぎらず、性別、年齢など、さまざまに異なる人々の対等な社会参加を示す政策用語である。現在の日本社会はますます進む人口の少子高齢化とグローバル化を前にして、将来展望が描けず、立ちすくんでいる。この現状を打破するには、日本という舞台上、日本人のみならず、世界の人々がその持てる力を発揮し、活躍できるよう、日本社会をもっと世界に開く以外にないのではなかろうか。外国人にとって住みやすい社会を作るのはなかなか大変なことである。しかし、それに向かって頑張っている人がいる限り、実現が期待できると考える。

外国人が住みやすい社会はどうやって作ればいいだろう

香川大学 留学生センター CHEON GWANGHEE

大勢の人々が海外を訪れる理由は主に観光や就職または留学だ。まず、観光の場合滞在期間は短くその国の社会を見るよりはその観光地がどれほど観光客に対して気を遣っているかを見ようと思う。しかし就職の場合一定の期間の間その国で生活しなければならない分その国の社会や文化についてある程度詳しく勉強しなければならない。特に日本の場合は食事のマナーやゴミの分別、災難災害などの日常生活の常識を身につけなければならない。最後に留学の場合就職と似たところはあるが、まず学生の身分であって就職に比べ自由な生活ができ学校で様々な国籍の留学生の友達に出会い自分の国の社会や文化について話し合うことができる。それで互いにもっとその国の言語能力を向上することも期待できると思う。しかしいくらその国の言葉を勉強してもその国から受け入れられなければ淘汰されるだけだ。外国人が住みやすい社会とは誰が作り、今どういう風に進めているのか私は全然わからない。単にお互いのことを理解し尊重することでもっと住みやすくなるというセリフしか聞いたことがない。本当にこれでいいだろうか。

私が日本に来てから約一か月が経った。この一か月間の私の経験を始め今までのでき事に対して私の考えを述べようと思う。まず、言語のことだが私はある程度日本語ができ日常生活を過ごすのに不便さを感じたことはなかった。ただ一つ気になったのが私が使う表現や言い方が正しいのか実際日本で使われているのかということだった。しかしこのことに関してたぶんほとんどの人々は間違っただけでも別に直そうとしないだろうと思う。もちろん私が今まで使った表現が全部問題なかったかも知れないが、決してそういうことはないと思う。今の私は外国人という立場であり、日本人の立場から見ると“別に直さなくても意味は伝わるからまあいいか”と考え普通にそのまま会話を続けることもよくあると思う。だが間違っただけの言い方や死語などのことを正しく直してもらえないと後で間違っただけの言い方をそのまま使うだろうし、それは結局のところ外国人という名札が付きまとうことになるだろう。むしろむやみに間違いを指摘しても意味がないだろう。互いに話し合っただけで学ぼうとする人々だけに教えてくれればよいと思う。互いが尊重し、知り合うために私たちは言語を勉強しているのではないだろうか。

私は外国人が住みやすい社会という質問に他の人々はどのような風と考えているのかあるいは既に外国人が住みやすい社会は作られているのか気になって参考のためにネットで調べてみた。記事や設問結果をはじめ外国人で行った投票などの情報がたくさんあったがその中で少し気に入った記事があった。その記事は中国のチョンジンという都市が 2014 年に外国人が投票した中国内の住みやすい十大都市の中で 5 年連続高得点をもたらしたという記事だった。あらずじはチョンジン市が外国人のための医療環境や社会公共秩序、行政サービスや仕事政策などの様々な政策を実施したりチョンジン市民と外国人との交流のため風景写真コンテストを開催するなど色々な行事を行っていたそうだ。やや過去のものではあるがこの記事を見てだんだん外国人が住みやすい社会に近づくのではないかと思った。ネットで調べることで今から外国人が住みやすい社会を作るのに絶好のチャンスでこの機会を生かして私たちは一体何をすればいいのかについて再度考えてみることにした。これからは個人だけではなく団体や政府からの支援もあるし、私たちは今までよりもっと積極的にその国の人々と向き合えば互いにいい関係を結ぶことができるだろう。

今は大抵どこの国でも行けるようになって町中で様々な外国人が見られる。まず、日本の場合‘内’、‘外’の文化で外国人たちが日本の人々に接するのが難しい。韓国の場合も外国人への視線はいいほうではない。正確に言うとあまり関心を持たない。関心がないから近づこうともしないし、近づけないから会話はもちろん理解すらしようとしない。外国人が住みやすい社会を生きるためには自らその国の人々に近づくことが最優先課題だと思う。今までの韓国の経験と留学生の時の経験を思い出すと現地の人々が先に外国人に近づくことはなかなか見ら

れない。私は人見知りで最初は人と話すのがすごく大変だった。でも私から何かしないと他国で独りぼっちになるのではないかという恐怖から一所懸命周りの人々に接するため努力した。そうやってたくさんの留学生の友達と日本の友達ができた。最初は言葉も違うし文化や生活も全然違うから大変だったがお互いに話し合っ互いのことを理解するようになって。韓国には‘ローマに行ったらローマの法に従え’という諺がある。他国に行って自分の考えや自分の国の文化に拘らずその国の文化を尊重しなさいという意味が含まれてる諺だ。私は一人一人が集まって集団になり、その集団が集まって団体を作り、団体が集まって社会を作るのではないのかと思う。外国人が住みやすい社会を作るためにはまず、一人一人がその国の人々に近づき話し合うことから一歩ずつ進んでいく必要があるだろう。

いい社会は一人では作れない

香川短期大学 経営情報科 情報ビジネスコース
HOSSAIN MD KAWSAR

これは私が日本へ来たばかりのことです。ある日、電車でとなりに座った人に質問されました。「日本は住みやすいですか」と。その時、私は何も考えずに「はい」と答えました。私は、この人から聞かれるまで何も考えていませんでした。ただ普段の生活に慣れるように頑張っていました。でも、この出来事のあと、私は少し考えてみました。日本は本当に住みやすいのか、また住みやすいというのはどういうことなのか。その答えは人によって少しずつ違うかもしれませんが、私にとって住みやすい社会とはこんなところでは。それは、安全に住むことができ、いろいろな人と出会い、人と人のいいつながりがある。そして、人の基本的なニーズと欲求を見つけることができる社会です。それに、人が楽しい時間を祝い、悲しみを他の人と共有できる社会です。

国によって習慣や文化が違います。日本には様々な国の人々が来て、一緒に住んでいます。私は、日本へ来る前に日本について次のような印象を持っていました。日本はとても忙しい国で、いつも働いてばかりで、寝る時間もない。だから、日本人はよく自殺しているという印象です。私は、「この国へ行って、ちゃんと生活ができるのだろうか」と心配になりました。でも、日本へ来てから、そのネガティブな考え方からポジティブな考え方に変わりました。

私がコンビニでアルバイトを始めたばかりのころ、くじを引いてもらうというサービスがありました。そのとき、お客様はヨーグルトを当てたのですが、私は勘違いして牛乳を渡しました。すると、お客様は「この商品は、間違ってるんじゃないかな？ たぶんあっちの商品じゃないかな？」と別の商品を指さして私に聞きました。私はそのとき、びっくりしました。お客様は「間違ってるんじゃないかな？」とか「たぶん、あっちの商品じゃないかな？」という言い方をして、はっきり言いませんでした。それに、私に聞いているような言い方でした。バングラディッシュなら、はっきりと「間違っている！」と言って怒ります。私は失敗したことが恥ずかしかったのですが、お客様の話し方のおかげで、その恥ずかしい気持ちが少し和らぎました。お客様は私に恥をかかせないように、あいまいな言い方をされたのだと思います。

社会の人々がお互いに優しくないと、どの社会でも住みやすくないと思います。私の知り合いのバングラディッシュ人にいつも怒っているような人がいました。悪い人ではありませんが、友達に対しても機嫌が悪そうに話して、周りの人も嫌な気持ちになっていました。でも、日本で5か月ぐらい生活すると、アルバイト中に店の人に指示されても素直に「はい」と言えるようになっていました。そして、周りの人に対する態度も変わりました。このように、いい人になっていく様子を何人も見てきました。これは良い社会の力です。良い社会は悪いことや悪い人を良いものにすることができます。日本社会の人々は、性差別や人種差別をしません。貧しい人々と豊かな人々の関係は非常に満足できる状態です。高齢者と若年者の関係も非常に良好です。私にとって、社会は鏡のようなものです。それは私たちにその方法を正確に示し、私たちが社会でやったことを表します。良い社会では、人は一人で生きることができますが、一人で生きているとは感じません。周りの人達がとても優しいから、みんなが自分の家族だと考えられます。

このおかげで私のような外人は国や家族から離れても、日本でみんなと一緒に楽しく生活が続けられています。ほかの人の意見はわかりませんが、私にとって日本はとても住みやすい国で、この社会も外国人にとってとても住みやすい環境だと思います。

香川でバンド活動

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 DIKI YITNO

2019年の4月に日本へ来て、今、日本語学校で日本語を勉強しています。挑戦したいこともたくさんあって、香川でいろいろな国の人とバンドを作って演奏したいと思っています。そのために今、メンバーを探しています。だれかベースとか、ドラムとか、ボーカリストをやってもらえませんか。できれば、メンバーはみんな別の国の人になりたいです。そして、集めるのができたら、すぐバンドの名前を決めます。決めたら、曲を作って、いい歌詞を入れて、音楽を作ります。全部できたら、レコーディングをしようと思っています。そして、ユーチューブでアップロードして、たくさんの人に見てもらおうと思っています。

実は前、インドネシアにいたとき、友だちと学校のイベントで活動をしていたのですが、今はその友だちと離れてしまったので、バンドをやることができなくて、とてもさびしく思っています。ですから、日本で新しいバンドを作りたいです。できれば、一人は日本人を入れたいです。今、日本の友だちができたので、その人にもいろいろ手伝ってもらおうと思います。

日本へ来てから、楽しいことや大変なことがありました。その経験や気持ちを歌詞の中に入れたら、いい音楽ができるはずです。そして、ちがう国の人がいいたら、もっと歌詞の世界も広くなります。どんなバンドができるか、とても楽しみです。もちろん、日本語でも歌いたいですから、日本語の勉強もがんばります。

ぜったいに香川でバンドをしますから、みなさん聞きに来てください！

最高のレストランを作りたい

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 GURUNG MAYGAL

香川で挑戦したいことがたくさんあります。今、自分の将来について、どうすればいいかたくさん考えていて、できれば日本にずっと住んで、仕事をしたいと思っています。将来の夢にも関係があるのですが、私の挑戦したいことは、香川県にある全部のネパールレストランに行くことです。

最近、香川県に私の国のレストランがたくさんできています。まず、私は全部のレストランで料理を食べて、お客さんと話して、どうすればもっとよくなるかとか、いろいろなほしいものを聞きたいです。そうやって情報を集めたら、私も自分のレストランを建てつもりです。日本人やいろいろな国のお客さんのほしいものをそろえて、あとはサービスも良くして、いいレストランにしたいです。

私は以前、いろいろな料理を作って、友だちに食べてもらったことがあります。その友だちはとてもおいしいと言ってくれました。うれしくて、私ももっとがんばろうという気持ちになりました。私は料理がそんなに上手じゃありませんから、ネパールの料理店で働きました。でも、働いているうちに、シェフではなくて、経営のほうに興味が出てきました。どうすればもっとお客さまが来るかを考える、マネージャーの仕事をしたと思うようになりました。

日本語が上手になったら、挑戦したいことも簡単になると思いますから、今、日本語を勉強しています。日本のレストランを建てたら、ネパールのいいもの、新しいものをお客さまに紹介したいです。私の挑戦したいことは、自分の将来につながっています。ですから、今がんばっています。

私の夢

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科

GIMENEZ PAULA ROMINA

子どものころ、ずっと作家になりたかったです。今でもその夢がありますが、何の作家、何のため、いろいろなことを考えるようになりました。最近子どもだけではなくて、大人のための絵本も作りたと思っています。そして、自分で絵もかいて、日本語でもスペイン語でも英語でも書いている絵本にしたいと思います。これが私の夢です。

今、研修のおかげで、日本の香川にすんでいます。アルゼンチン人は日本についてあまり知らないなので、香川についても全然知らないと思います。香川に住むようになってから、ここは住みやすい場所だとわかりました。だから香川のことをアルゼンチン人に伝えたいです。私は香川に2つの特別な思いがあります。「本島」と「赤かぼちゃ」です。最初に「本島」についての絵本を書きたいです。これはアルゼンチンの香川県人会のさなぎさんへのプレゼントにしたいです、なぜなら、本島はさなぎさんのふるさとだからです。この特別な本を、私のデビュー作にしたいです。

その夢にむかってがんばりたいですが、今は香川で、アイパルと国際課と学校に通っているので、忙しくて、なかなか自分の時間がありません。自分が何のために日本へ来たか、何をしたらいいか、自分の本当の夢は何か、などたくさん疑問があらわれます。子どものころの経験を思い出して不安になって、泣いてしまうこともあります。

でも何とかしないとイケないと思います。今は高い山に登っていて、大変なときです。途中で大きな石や、大きな穴があるかもしれませんが、自分に必要なことです。今、私は穴の中で戦っています。一人ぼっちじゃないと知っていますが、さびしいときもあります。大変なことを乗り越える方法はどこにあるか、見つけるのは大変ですが、絶対にあると思います。

私の夢はこれからもっともっと大きくなるかもしれません。すてきな絵本をかきながら、香川のことや自分の経験について、全部伝えたいと思います。

日本は本当に住みにくいのだろうか

香川大学 留学生センター RANGSON SOITIP

日本の技術や、安全、綺麗な環境のため、近年では、日本に住む外国人が次第に増加してきた。私も以前から日本に住んでみたかった一人のタイ人である。大学四年生の時に日本に留学する機会を与えられ、香川県に一年間住むことになった。来日する前に日本の事を周りの日本人や、日本に行ったことがある先輩に聞いたり、インターネットなど様々な方法で調べた。タイのウェブサイトでは日本は観光するのにいい国だと述べられているが、住むには難しいといくつかの意見が書いてある。最も討論になっているのが日本社会の非効率という話題である。残業時間が多く、厳しすぎる働き方、人間関係の難しさ、ストレスが溜まりやすい社会だと広く信じられている。ニュースにも過労死について多く書かれている。日本人から日本のことを教えてもらい、初めて過労死という言葉を知った時はあんまりにも信じられない事実であった。それ以外にも、物価の高さや、自然災害について多くの意見が出ている。様々な人の意見を受け入れるのはいいことだが、聞いた話だけで決定づけるのは誤りである。そのため、日本に留学に来て、多くの日本人と会話をし、色んな所に行き、たくさんの経験をした。実際に日本に住んでみたら、先輩から聞いた話や、インターネットなどに書いてあることは本当かどうかを確かめることができるため、日本でできるだけ経験を積むことを決めた。

日本に来て、最初に思ったのは日本とタイは思った以上に文化の違いが大きいということである。考え方や、マナー、仕事に対する意識、時間感覚など、すべてが違うのである。日本に住むことになったら日本のマナーや行動を守らなければならない。だが、いままでゆるい生活をしてきた人にとってはマナーを守ることができず、日本は住みにくいと決定づけ、諦めてしまう人も少なくない。さらに感じたのは、日本は勉強や仕事に対して、ミスをしてしまったら、許されない社会だと言われている。私も留学している間、何度もミスをしたことがある。約束の日を間違えたり、宿題の提出が遅れたり、授業に間に合わなかったりする。タイ人から見たらそんなに大きなミスではないが、日本人から見たら許されない失敗である。そんな環境が私にとっては非常に厳しいと考えている。もう一つ厳しいと聞いたことがあるのは日本人の人間関係である。日本に来て、日本人と友達になれるのが一番望んでいることだが、日本に行ったことがある先輩から聞いた話では、日本人の人間関係は疲れると何人も言った。同い年の人でも初対面だったら距離を置き、徐々に互いを知り、仲良くなれるのがとっても時間がかかるということだと言われている。だが、私はその聞いた話は事実とは思わない。実際に日本に住んでみて、日本人と頻繁に交流する上では、日本人は優しく友達になりやすいと思っている。私はタイ人だと聞いたら、笑顔でサワディーカップ、サワディーカーと挨拶してくる人が多かった。タイのイベントがやっている時にも多くの日本人が参加しに来た。日本で様々な活動をしてみたらタイの事に関心をもってくれる日本人は自分が思っているより多いのが分かった。そのため、日本での人間関係は難しいとは思わない。恥ずかしがり屋な人もいたが、きわめて明るい人も何人もいた。恥ずかしがり屋の人なら、自分から話しかけばすぐ友達になれる。したがって、日本人との付き合い方は聞いていたのと違い、私が外国人だと分かっているけども、タイ語を話せなくても話しかけてくれたり、友達になってくれたりする。それ以外にも住みやすいと思われる日本のいいところはいくつもある。たとえば、日本の交通安全である。タイと比べたら歩行者専用道路は広く、歩きやすい。自転車専用道路もどこでも設けられている。歩行者優先意識も高く、横断歩道を渡ろうとした時に車は必ず減速し、一時停止してくれる。このような交通安全や、交通の便利さが住みやすい社会にとっては欠かせないものである。それ以外にも、日本は景色がきれいで、空気がおいしく、素敵な環境が整っている。香川大学に留学に来てから様々な所に行ったが、どこでも景色が良く、楽しく、飽きることはなかった。タイ人の私から見たら日本の四季が非常に素晴らしいものだと思っている。季節によって、服装や、気温、風景などが

変わっていくのがとても素敵なことである。

日本社会の厳しさと住みにくいと思っている外国人は多くいる一方、日本で楽しく過ごすことができる外国人も多くいる。私は日本人の時間意識や勉強が大変だと思うが、素敵な環境や多くの優しい日本人と出会えることで、日本をより好きになった。どの国でもいい面と悪い面があると考えられる。タイも微笑みの国だと呼ばれて、人が優しいというイメージを持っていると聞いたことがあるが、タイ人皆そうとは限らない。同じように、日本人と友達になるには難しいというイメージに対し、日本人は皆、友達になりにくいというわけではない。外国人かどうかを気にせず、優しく友達になってくれる日本人も多い。したがって、私は日本は住みにくいと思わない。もちろん、大変だと思える時もあったが、その良いところも悪いところも理解し、受け入れることで、日本で楽しく過ごすことができるのであろう。

外国人にとって住みやすい社会とは

高松大学 経営学部 VU THI PHUONG THAO

2年半前、関西空港についた私は、日本語で簡単な挨拶しかできなかった。全く日本語がわからなかった私は、知り合いがいなく怖いと思ったが、新しい国で新しい生活と体験ができることを楽しみにしていた。なぜなら、「日本社会からはいろいろなことを得られる」と聞かされていたからだ。

日本に来てからは「日本に住むのはどう？ 住みやすい？」とよく聞かれた。しかし、日本の生活は思った以上に辛かった。

日本に来たばかりの頃、私は、日本語学校の先生や先輩にたくさんのことを教わったり、手伝ってもらったりしたが、早く日本の生活に慣れたい、日本社会に馴染みたいと強く思ったので、アルバイトをすることにした。しかし、日本語がダメな私は、落ち込むことが多かった。今でも思い出すと、辛くて涙が出るようになる。

コンビニでアルバイトを始めた私は、ある日、お客さんに「タバコください」と突然言われて、「すみません、何番でしょうか？」と聞き返した。

「あんた、日本語通じない？ なら、働くな。日本にくるな。くそ…」と言われた。

「人前で泣いちゃダメだよ」と、小さい頃から母にしつけられた私は、涙を飲み込んで、「すみません、すみません…」と何度も謝った。

日本語がわからないからこそ日本語を勉強してる外国人たちは日本に来た。だから、わからない言葉、わからないことを教えてほしい。簡単な日本語で説明してほしい。日本に住むことを決めた事を後悔しないように、簡単な日本語を使う社会を作してほしい。それが私たち留学生の本音だ。もちろん私たちも、日本語のレベルを上げるために必死に努力して勉強しなければならない。

「タオちゃん、どこから来たの？」とお客さんに聞かれて、「ベトナムからです」と答えた途端、冷たい目で私に見た客さんが、「そうか、犯罪者が多いよね」と言って、避けるように帰って行った。「軽蔑？」「なんで私はこんな目にあうの？」「ベトナム人の私は、悪いと思われてしまった？」。国のためにいろいろな強い国と戦ったことを、ベトナム人でよかったと、みんなの前で誇りが持っている。人はそれぞれの性格で生きてるから、悪い人がいくついても、全員が悪いと決めつけないでほしい。国を差別しないでほしい。私たちは、国が違って、言葉が違って、同じ人間だ。日本が私たち外国人の第二の故郷だと思えるように、ちゃんと受け入れてほしい。

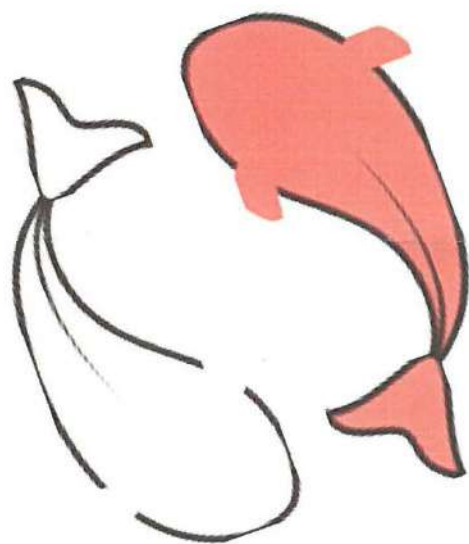
「ひきこもり」という言葉をよく耳にする。いま日本の社会課題になっている、職場や学校などに行けず、家に籠るという状態だ。学校でいじめられたり、会社で上司に叱られたりして、つらくて、行くのをやめてしまったのだ。

それでは、外国人の私たちは、ひきこもりができるのか？

できるはずがないだろう。夢を叶えるために、子供たちに期待している親をがっかりさせないために、日本で勉強している私たちは、そんな状態になってはならない。だから少しいいマナーが悪くても、言葉を間違えても、ダメなところばかりを叱るのではなくて、私たち外国人にやるべきことを教えたり、乗り越えられるように一緒にいい方法を見つけるとありがたい。外国人の私は、自分の経験から、住みやすい社会とは、嫉妬のない生活、差別がない生活、笑い声が聞こえる生活だと思う。人生は山登りだ。辛いことがあっても、親切な人がそばにいて、一緒に登ってくれたら乗り越えられる。

もし「今の生活はどう？」と聞かれたら、「満足。日本に来たことは後悔してない」と答えられる。

なぜなら、私の周りには、親切な人がいっぱいいるから。日本語がわからない時、先生や友達が教えてくれる。だから日本語能力が上がってきた。困ったことや悩みがある時、解決できるように、そばに親切なおばあさんがいて、相談に乗ってくれる。親切な人々に出会って、一緒に前に進んで行ける社会が住みやすい社会だ、私はと思う。





第16回 外国人留学生作文コンテスト
入賞作品集

編集・発行 香川県留学生等国際交流連絡協議会
デザイン案 三木高校インターンシップ生

【発行】 令和2年1月

【問合せ先】 香川大学国際グループ
〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
TEL 087-832-1148
FAX 087-832-1192